

平成28年3月宮古市議会定例会一般質問通告一覧表

(質問順)

| 質問月日           | 質問者                           | 質問事項   |                   |
|----------------|-------------------------------|--|-------------------|
| 2月29日<br>(月曜日) | 12番<br>須賀原チエ子 議員<br>(ネクストみやこ) | 1 応急仮設住宅の集約について<br>2 復興後の新しいまちの交通体系について<br>3 岩手県立高等学校再編計画案について | P 1<br>P 1<br>P 1 |
|                | 15番<br>古舘 章秀 議員<br>(ネクストみやこ)  | 1 農林畜産振興について<br>2 カーフェリー航路開設について<br>3 東日本大震災被災地域の土地利用計画について    | P 2<br>P 3<br>P 3 |
|                | 16番<br>工藤 小百合 議員<br>(無所属)     | 1 鍬ヶ崎地区防潮堤工期について<br>2 医師等養成奨学資金制度について<br>3 証明書等のコンビニ交付の時期について  | P 4<br>P 4<br>P 4 |
|                | 10番<br>北村 進 議員<br>(新風クラブ)     | 1 全国自然敬愛サミットについて<br>2 教育行政方針について<br>3 高校再編案について                | P 5<br>P 6<br>P 6 |
|                | 13番<br>高橋 秀正 議員<br>(復興を考える会)  | 1 小中学校適正配置実施計画について<br>2 スクールバスについて                             | P 7<br>P 7        |
|                | 26番<br>田中 尚 議員<br>(日本共産党)     | 1 市の将来像について<br>2 「公共交通体系」について                                  | P 8<br>P 9        |

| 質問月日          | 質問者                          | 質問事項   |                              |
|---------------|------------------------------|--|------------------------------|
| 3月1日<br>(火曜日) | 17番<br>坂本 悦夫 議員<br>(新風クラブ)   | 1 子どもの放課後等の対策について<br>2 子どもの外遊びの環境整備について  | P 10<br>P 10                 |
|               | 22番<br>松本 尚美 議員<br>(一新会)     | 1 市庁舎移転新築と地方創生どちらが優先か<br>2 投資的経費は確保できるのか<br>(中期財政見通しについて)<br>3 三陸沿岸の中心市宮古を目指すことについて          | P 11<br>P 12<br>P 12         |
|               | 21番<br>竹花 邦彦 議員<br>(新風クラブ)   | 1 宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進について<br>2 J R山田線全線復旧の見通しと三陸鉄道移管に伴う新駅設置について                            | P 13<br>P 14                 |
|               | 25番<br>藤原 光昭 議員<br>(新風クラブ)   | 1 超高速ブロードバンド整備について<br>2 国道340号押角トンネル前後の未整備区間の事業化促進について<br>3 介護職員の確保について<br>4 バス利用者のトイレ設置について | P 15<br>P 15<br>P 16<br>P 16 |
|               | 24番<br>茂市 敏之 議員<br>(復興を考える会) | 1 市民の健康を守るために<br>2 提言に対する市当局の対応について  | P 17<br>P 18                 |
|               | 7番<br>中島 清吾 議員<br>(日本共産党)    | 1 漁業担い手育成対策事業について  | P 19                         |
| 3月2日<br>(水曜日) | 1番<br>今村 正 議員<br>(無所属)       | 1 津波遺構たろう観光ホテルについて<br>2 宮古市営浄化槽事業について<br>3 市営住宅間の転居について                                      | P 20<br>P 20<br>P 21         |
|               | 14番<br>橋本 久夫 議員<br>(ネクストみやこ) | 1 砂浜の保全について<br>2 芸術文化の振興について   | P 22<br>P 22                 |
|               | 2番<br>小島 直也 議員<br>(公明党)      | 1 生活困窮者の医療について<br>2 生活習慣病等の予防について  | P 23<br>P 23                 |
|               | 9番<br>内舘 勝則 議員<br>(無所属)      | 1 ひっ迫する市財政への自主財源確保の取り組みについて<br>2 将来を見据えた農林水産業の体質強化と若い後継者が挑戦できる支援策を<br>3 介護職員の人材確保と処遇改善について   | P 24<br>P 24<br>P 25         |
|               | 20番<br>落合 久三 議員<br>(日本共産党)   | 1 宮古市経営方針の平成28年度最重要課題の「地方創生」について<br>2 「復興再生期」最終年の住まい再建支援策について                                | P 26<br>P 26                 |

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 2月29日(月)

質問順位 1番

質問者 議席番号 12番 須賀原 チエ子 議員

| 質問事項                 | 質 問 要 旨   | 摘 要 |
|----------------------|---|-----|
| 1 応急仮設住宅の集約について      | <p>応急仮設住宅の撤去・集約化計画は概ね順調に行っているとのことである。しかし、撤去・集約化が最優先になっていた学校敷地については、一日も早い撤去を望む。計画を前倒すなど変更が可能か伺う。</p>   |     |
| 2 復興後の新しいまちの交通体系について | <p>各地区の災害公営住宅や防災集団移転促進事業、土地区画整理事業など造成工事が終了したところから被災者が住居を移し新たな生活が始まっている。市では復興後の新たなまちに合わせた、バス路線の見直しやタクシーの活用、鉄道新駅も含めた「持続可能な公共交通体系」の構築に取り組むとしている。このことは必要不可欠であり早急な取り組みが望まれる。</p> <p>このバス路線の変更には、路線の選定に多くの時間を要し、また、許可されるのに約半年かかると聞く。事業者と連携を取り、早めの計画作成が必要と思うが考えを伺う。</p>  |     |
| 3 岩手県立高等学校再編計画案について  | <p>岩手県立高等学校の再編計画案が出され、今年度中の策定を目指して各地で説明会が開催されている。岩手県教育委員会では地元の意向を大切にしながら実施するとしている。現在、宮古商業高校と宮古工業高校の統合計画案が出されている。</p> <p>この計画では校舎制が取られるが、時間的ロスや生徒間の一体感が取れないなど多くの問題点が指摘されている。また、説明会の中で県教委は近い将来、水産高校も統合の対象にすると明言している。岩手県教育委員会から示された資料を見ると、宮古地区から内陸地域に100名以上の生徒が流出している。多くの生徒が大学進学を目指し高額のコストをかけても教育水準の高い内陸の学校に入学している。当市も内陸並みの有名大学に入学できる教育を実施できれば生徒の流出を減らせると考える。</p> <p>今回の再編計画は宮古市の将来に多大な影響があると考えられる。同時に宮古らしい実践に即した実業高校を造るチャンスでもある。そこで、市の今年度の高校再編計画案への見解を伺う。</p> |     |

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 2月29日(月)

質問順位 2番

質問者 議席番号 15番 古館章秀議員

| 質問事項         | 質 問 要 旨   | 摘 要 |
|--------------|---|-----|
| 1 農林畜産振興について | <p>(1) 農業振興について</p> <p>① 地域ごとに定めている重点振興品目について、地域ごとの品目名と生産拡大実績を含めた効果、課題について伺う。</p> <p>② 農業の振興促進が図られ「しごと」の場となることにより、定住化が進み「ひと」による営みが定着すると思う。山間地域の地の利と遊休地等の活用により、複合経営による安定収入が得られるよう、特に農業後継者の経営意欲の高揚が図られ、市外の方も本市の農業に意欲を持つための経営計画を作成、発信し、農業者の定住化を促進することも一つの施策であると思うが考えについて伺う。</p> <p>③ 農業で子育てが可能な収入が得られるなど「住みたい町宮古」となることが重要である。そのためには、市外から研修生を受け入れ、本市の自然の魅力を体感させることが一番であると思う。山間地域には宿泊施設がないことから、休眠公共施設等の有効活用により研修等ができる仕組みづくりを構築すべきと思うが考えを伺う。</p> <p>④ 畜産市場の高値が続き、農業を主体とした複合経営に大きな役割を担っている。畜産振興をどのように促進しようとしているのか伺う。</p> <p>(2) 林業振興について</p> <p>① 以前、担い手育成のための研修体制の確立について提言したところ、平成27年度に作成する「宮古市林業再生プラン」の中で課題として取り組むとしたが、取り組みの内容について伺う。</p> <p>② 林業者の高齢化は大変深刻である。森林・林業を体験しながら研修を積み重ねることにより雇用の場を拡大するため、市外からの研修生を受け入れることも施策の一つと考える。休眠公共施設を宿泊施設として有効に活用し、研修等ができる仕組みづくりを早急に構築すべきと思うが考えを伺う。</p> |     |

|                                |   |  |
|--------------------------------|---|--|
|                                | <p>③ 林業振興について、林業従事者に対する施策として、市有林及び施行造林等の計画的・継続的な森林整備による雇用機会の創出を図るとした、その効果について伺う。</p>  |  |
| <p>2 カーフェリー航路開設について</p>        | <p>(1) 施設整備について</p> <p>① 施設整備については港湾管理者である県が国と協議しながら検討を進めているとのことであったが、接岸岸壁、緩衝材(防舷材)、ターミナル等の整備に向けた進捗状況について伺う。</p> <p>② 重要港湾として、タグボートの常設が必須であり、常設すべきと思うが見通しについて伺う。</p> <p>(2) 宮古港フェリー利用促進協議会について</p> <p>① 宮古港フェリー利用促進協議会の構成員と組織体制はどのような考えか伺う。</p> <p>② 岩手県トラック協会は、貨物集荷についての情報収集等は業界トップと思うが、協議会の構成員と考えているのか伺う。</p> <p>③ 宮古港の出入港時間はどのような情報が入っているのか伺う。</p> <p>④ 平成 28 年度中に最優先課題として、宮古港フェリー利用促進協議会が取り組む事項は何か伺う。</p> <p>⑤ 過去に本市と商工会議所が一体となって内陸方面にポートセールスを行ったと聞くが、今後、商工会議所と一体となった取り組みが必要と思うが考えについて伺う。</p> |  |
| <p>3 東日本大震災被災地域の土地利用計画について</p> | <p>① 災害危険区域の居住に適さない土地、特に大きく被災した地域の居住使用中の土地については、市が買い取っているが、その土地の活用状況を伺う。</p> <p>② 赤前地区や田老地区など、大きく被災した地区は、市が買い取った土地と買い取り対象外の土地が混在することになる。居住に適さない区域の市取得以外の土地をどのように管理・活用しようとしているのか伺う。</p> <p>③ 買い取り対象外の土地の宅地・農地所有は利活用ができるのか利用計画が示されず大変困惑していると聞くが、早期に対処すべきと思うが見解を伺う。</p>  |  |

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 2月19日(月)

質問順位 3番

質問者 議席番号 16番 工藤小百合議員

| 質問事項                 | 質 問 要 旨  | 摘 要 |
|----------------------|--|-----|
| 1 鍬ヶ崎地区防潮堤工期について     | <p>① 市は工事の進捗状況について、事あるごと、県から説明を受け、協議等を積み重ねて今日に至ると思われませんが、工期延長について、どの段階で県から説明があったのか伺います。</p> <p>② 震災から5年になります。工期延長により、再スタートに向けて一日千秋の思いでその時を待ち望んでいた住民の落胆は、計り知れない深いものです。市はこのような状況をどのように捉えているのか伺います。</p> |     |
| 2 医師等養成奨学資金制度について    | <p>医師や看護師を目指す方に対して、奨学資金の貸し付けを行っています。介護福祉士・社会福祉士についても質の高い技術の習得が課題であり、若い人材が必要とされる職種であります。人材不足解消に同様の奨学資金の貸し付けが必要と思いますが、市の考えを伺います。</p>   |     |
| 3 証明書等のコンビニ交付の時期について | <p>市民の利便性を図るため、新たに住民票などの各種証明書をコンビニエンスストアで交付できるようにするとともに、市税などを郵便局の窓口でも納付できるようにしていくとあります。</p> <p>具体的な実施時期は、いつ頃を計画しているのか伺います。</p>   |     |

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 2月29日(月)

質問順位 4番

質問者 議席番号 10番 北村 進議員

| 質問事項                 | 質 問 要 旨  | 摘 要 |
|----------------------|--|-----|
| 1 全国自然敬愛サ<br>ミットについて | <p>宮古市経営方針の中で、「全国自然敬愛サミット 2016」が宮古市で開催される機会をとらえ、2つの自然公園を擁する本市の優れた自然環境をPRしてまいります」としている。</p> <p>本市では、「日本の森・滝・渚 100選」に、渚で浄土ヶ浜が、森に十二神自然観察教育林が選ばれ、森・滝・渚のうち2つが選ばれている。</p> <p>その後、合併により広大な面積となり、面積の90%近くが森林という宮古市であり「森・川・海とひとが共生する安らぎのまち」を標榜している。</p> <p>川井地域には、早池峰国定公園とともに「木の博物館」という後世に引き継いでいかなければならない自然の宝庫がある。併せて、区界地区の権現滝など市内には数々の滝もある。森・川・海にふさわしい滝についても内外にアピールし、三陸ジオパークを世界ジオパークの認定につなげていかなければならないと考える。</p> <p>そこで、以下の点について伺う。</p> <p>① 「全国自然敬愛サミット 2016」開催の意義と、詳細について伺う。</p> <p>② 十二神山教育林を利用するうえで課題は何か伺う。</p> <p>③ 早池峰国定公園及び木の博物館の入込数を増やすための課題は何か伺う。</p> <p>④ 市内にある景観の優れた滝をPRするための手立てを講ずるべきと考えるが、見解を伺う。</p> |     |

|                     |   |  |
|---------------------|---|--|
| <p>2 教育行政方針について</p> | <p>教育行政方針について、以下の点について伺う。</p> <p>① 小・中・高にスクールカウンセラーが配置され児童生徒の相談指導体制が整ったが、その有効性と課題は何か。</p> <p>② 「宮古市立小・中学校適正配置実施計画」の策定にあたって、震災によって新たなまちづくりが行われている地区もある。基本計画の検証と見直しをすべきであると考えているが、見解を伺う。</p> <p>③ 「読書まち宮古」のさらなる充実を図るためにモデル校に専任司書を配置すべきであると考えているが、見解を伺う。</p> <p>④ 「希望郷いわて国体」の開催にあたって、市民にボランティアを募集するなど関心を高める工夫がされているが、大会関係者以外の一層の関心を高める手立てが必要と考えているが、見解を伺う。</p> |  |
| <p>3 高校再編案について</p>  | <p>新たな県立高等学校再編計画（案）では、宮古ブロックの再編の方向において、定時制課程については、全県的なバランスを考慮しながら、宮古高校と杜陵高校通信課程宮古分室の一体化と併せ、多部制・単位制の設置や移行について検討します。としているが、市ではこの「再編の方向」について、どのように捉えているのか伺う。</p>   |  |

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 2月29日(月)

質問順位 5番

質問者 議席番号 13番 高橋秀正議員

| 質問事項               | 質 問 要 旨   | 摘 要 |
|--------------------|---|-----|
| 1 小中学校適正配置実施計画について | <p>この4月、新里地区の茂市、墓目、刈屋及び和井内小学校4校の閉校により、新しく新里小学校が誕生します。これにより、来年度の本市の小学校は18校、中学校は11校となります。「平成27年度宮古の教育」の資料によると、平成28年度の小学校入学予定者は374人、29年度は350人と減少が続くなか、学校統合は避けては通れないと思います。人間形成の上からも、早急に教育環境を整え、小中学校の適正配置実施計画を作成し、適正配置を進めるべきと思いますが、教育委員会の考えと見通しについて伺います。</p> |     |
| 2 スクールバスについて       | <p>現在、スクールバスの運行は、6業者、バス25台で行っておりますが、次の点について伺います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 整備管理者は選任されているか。</li> <li>② 運行業者は旅客運送業の許可を取っているか。</li> <li>③ 子供たちの安全・安心は図られているか。</li> <li>④ 通学バスは、当初契約で運行されているが、土日などの臨時運行は、白タク行為ではないか。</li> </ul>          |     |

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 2月29日(月)

質問順位 6番

質問者 議席番号 26番 田中 尚 議員

| 質問事項        | 質 問 要 旨   | 摘 要 |
|-------------|---|-----|
| 1 市の将来像について | <p>市は、震災からの復興を最優先に本年度は「地方創生」を最重要課題に位置付けている。それと同時に「宮古市総合計画」の将来像とする『「森・川・海」と人が共生する安らぎのまち』を目指しているが、今日までの取り組みに照らし、今後の重点課題についての認識を伺う。</p> <p>① 「森・川・海」は地域の豊かな自然を表しているだけでなく、資源活用の可能性を期待させるものと考えますが、市も同様の考えか。</p> <p>② 「森・川・海」は一般的にはどれも重要と言えるが、戦略的には「みなと町」としての「海」を活かした発展方向を明確にして、その力で市全体の活性化を実現すべきと考える。市の見解はどうか。</p> <p>③ 「森」を資源とみれば、川井地域にはウツティかわいの集成材工場や木質バイオマス発電が操業を開始し、地域の雇用と経済に貢献している。木質バイオマス発電の事業評価と今後の木材活用政策を示されたい。</p> <p>④ 「川」は、森と海をつなぎ海に栄養素を運び、海藻や魚の生育を保障し、サケのふるさととして地域の経済に貢献している。川が汚染すれば海、漁業の発展が阻害されるばかりか、市の飲料水にも影響が生ずる。閉伊川水門の影響を懸念する声も聞かれるが、川の環境保全対策上、市はどう考えているのか。</p> <p>⑤ 「森・川・海」の資源を活かした経済政策は第一次産業の分野である。自公政権が選挙公約に反し、成立させようとするTPP協定は市発展の基礎をなす産業の衰退をもたらすことになると考えるが、市の見解はどうか。</p> |     |

|                       |  |  |
|-----------------------|--|--|
| <p>2 「公共交通体系」について</p> | <p>「総合計画」の「三陸沿岸地域の拠点都市としての基盤形成」では道路整備と情報通信整備が強調されているが、鉄道整備がなく、その位置付け的な検討を議論してきた経緯がある。</p> <p>鉄道は持続可能な「公共交通体系」分野で述べられているが、山田線宮古釜石間の早期復旧とともに土砂災害で部分運行となっている宮古盛岡間の早期復旧も重要と考える。市は復旧に向け、関係機関と連携を図るとしているが、戦略を含め見直しについて伺う。</p> <p>① 土砂崩れの防止対策工事は、急傾斜地崩壊防止対策的な手法ではなく、危険斜面を削り取る工法が、有効かつ早期復旧が可能になると考える。JR等に要請すべきではないか。</p> <p>② 被災者の生活支援として運行されている仮設住宅団地を結ぶ路線バスは、災害公営住宅の整備によって変化が予想される。バス路線の見直しに当たっての基本方針を示されたい。</p> <p>③ デマンドバス(タクシー)の具体化を念頭に運行実証事業が川井・新里地区で予定されているが、実証だけで終わることではないか。</p> <p>④ 市内を循環するワンコインバス運行の具体化は可能か。</p> <p>⑤ 計画を担当する職員体制は十分と考えているのか。</p> |  |
|-----------------------|--|--|

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月1日(火)

質問順位 1番

質問者 議席番号 17番 坂本悦夫議員

| 質問事項               | 質 問 要 旨   | 摘 要 |
|--------------------|---|-----|
| 1 子どもの放課後等の対策について  | <p>子どもたちを取り巻く社会環境が大きく変化する中であって、改めて「子どもたちは、どのように放課後を過ごすことが望ましいのか」放課後こそが子どもの時間であり、大人に干渉されずに自由に自分の生活をつくり出すことができる時間帯である。豊かな放課後の居場所をどのように確保するかが、重要な課題になっている。そして放課後の活動を通じて、自立心、社会力、創造力等を育むことがますます重要になってきている。共働き家庭、ひとり親家庭の児童に限らず、全ての児童が放課後等に多様な体験、活動を行うことができるようにすることが重要であり、全ての児童を対象にした放課後対策を講じる必要がある。</p> <p>そこで、次のことについて伺う。</p> <p>① 子どもの放課後等の生活について、どうなっているのか調査したことがあるか。</p> <p>② 子どもの放課後等をどう考えるか。</p> <p>③ 総合教育会議で「放課後対策」のあり方について協議したことがあるか。</p> <p>④ 放課後子ども総合プランについて、放課後子ども教室と学童保育の連携による実施を検討してみてもどうか。</p> |     |
| 2 子どもの外遊びの環境整備について | <p>自然があっても子どもは遊ばない、子ども同士が群れ集って遊ぶ姿が地域社会から消えたということこそ、今日の児童問題、放課後問題の中で、重大な危機として認識しなければならないと思う。学校や施設の中ではなく、地域社会あるいは野外という自由空間で遊ぶ子どもたちの、いわば「野生」の姿の消失が「子ども」という存在の活力を弱め、「生きる力」の劣化を招いているのではと思う。</p> <p>そこで、次の点について伺う。</p> <p>① 子どもたちの「遊び」の実態をどのようにとらえているか。</p> <p>② 野外活動の拠点をグリーンピア三陸みやこに移し、子どもたちが自由な発想で遊びや活動のできる野外活動の場(仮称:子どもの森)に整備してはどうか。</p>   |     |

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月1日(火)

質問順位 2番

質問者 議席番号 22番 松本尚美議員

| 質問事項                         | 質 問 要 旨   | 摘 要 |
|------------------------------|---|-----|
| <p>1 市庁舎移転新築と地方創生どちらが優先か</p> | <p>市長の平成28年度の経営方針と施策・事業・予算について拝聴した。新年度の取り組みとして「震災からの復興」と「地方創生」を最重要課題として取り組むとあるが、「地方創生」について何か危機感が感じられない。経営方針にもさらっと触れただけで、当然に施策、予算にも反映されていない。本当に市長が地方創生、人口減、定住促進に取り組み、真に「新しいまちづくり」に改革と挑戦を実行しようとする本気度が感じられない。示された経営方針は宮古市全体の経営者、最高責任者、トップリーダーとして示したものと感じられないのは私だけだろうか。単なる行政組織である市役所みの経営方針としか思えず、起草から職員に丸投げしているのだろうか。政治家として、全市民を代表する経営者が示したものとは思えない。安定財源である合併特例債を市庁舎新築移転事業にすべて注ぎ込み、最重要課題とする地方創生、人口減少、定住促進に資する施策事業を展開する財源を、なぜ不安定財源に頼るのか。経済を強くする若者が安定して働き、子育てが安定してできる施策事業展開の財源の確保が、市庁舎移転新築事業よりなぜ優先しないのか、全く理解できない。</p> <p>経営方針では国の補助金、総合戦略では過疎債、公共施設再配置、ふるさと創生基金等で実効性を担保する財源を確保するとしているが、一体いくら安定財源を確保できるのか明確に数字を示すべきだ。戦略そのものが絵に描いた餅になる。議会も様々な施策提案しているが、単なる絵空事になってしまう。市庁舎新築移転と人口減少、定住促進対策どちらが優先するのか、市長は明確に答える責任と義務がある。</p> |     |

|                                     |   |  |
|-------------------------------------|---|--|
| <p>2 投資的経費は確保できるのか（中期財政見通しについて）</p> | <p>公共施設再配置を実施段階に進めるとしているが、このことにより、投資的経費、財源が確保でき、十分に財政運営が問題なくできるということだろうか。私の理解は、このままでは公共施設の維持はできない、改築、改修は程遠いことで、財源を生み出すことでなく、現時点で財源を確保できない。維持することすら大変厳しいとすることから、財源確保可能な施設配置をしなければならないとして実施するものであり、新たな投資的財源を確保できるものではないと考えるが、市長の見解を伺う。新しいまちづくりにふさわしい行財政運営を推進するとしているが、新しいまちづくりの投資的経費、財源は具体的にどのように確保するのか伺う。</p> <p>復旧、復興事業終了後、震災関連以外も含めた公共施設、道路等維持管理にかかる固定義務的経費は一体いくらかかるのか、起債償還も加え、大変厳しい財政運営が強いられると思うが、市長はどのように説明するのか。中期財政見通しが今定例会最終日に予定されているが、あえて見通しを伺う。</p> |  |
| <p>3 三陸沿岸の中心市宮古を目指すことについて</p>       | <p>三陸沿岸の中心市宮古のまちづくりに取り組むとしているが、中核都市との表現から変化しているが一体どのような宮古を目指しているのか、経済的数字を基に具体的に説明願いたい。</p>  |  |

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月1日(火)

質問順位 3番

質問者 議席番号 21番 竹花邦彦議員

| 質問事項                        | 質 問 要 旨  | 摘 要 |
|-----------------------------|--|-----|
| 1 宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進について | <p>市長は、経営方針において、平成28年度の最重要課題を「震災からの復興」と「地方創生」と位置づけ、地方創生については、「宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略」(以下、総合戦略)に基づき、人口減少対策、定住促進対策を進めるとした。</p> <p>ついては、総合戦略の推進について次の点を伺う。</p> <p>(1) 総合戦略の平成28年度の位置づけについて<br/>総合戦略のプログラム推進体制では、施策事業の多くは平成29年度以降の実施とされている。宮古市の地方創生・総合戦略における平成28年度の位置づけは、本格的かつ具体的事業展開に向けての調整、検討等の時期と捉えるが、その理解で良いか伺う。</p> <p>(2) 人口減少と定住促進について</p> <p>① 人口減少対策の基本は、人口減少の要因を分析しその対策を講じることにあると考える。<br/>宮古市人口ビジョンでは、15歳～24歳までの若い世代の転出、進学や就職を機にした転出が、人口減少(社会動態)の最大要因としている。これは、宮古市に限らず全国の地方自治体に共通する課題でもある。<br/>宮古市の若い世代の人口流出防止、定住促進について、人口ビジョンでの分析を踏まえ、市長はどのような視点に立った施策の組み立てがポイントになると認識しているのか伺う。</p> <p>② 総合戦略市民アンケート調査では、生活環境の不满等を理由に、宮古市外転居意向者は約22%に上っている。定住化に向けて交通の利便性や医療・福祉環境の充実が大きな取り組み課題となる。<br/>この課題に係る戦略の推進について市長の考えを伺う。</p> <p>③ 雇用の創出戦略において、雇用のミスマッチも定住促進での大きな課題であると認識する。<br/>雇用のミスマッチに対する戦略、施策について市長の考えを伺う。</p> |     |

|  |   |  |
|--|---|--|
| <p>2 JR山田線全線復旧の見通しと三陸鉄道移管に伴う新駅設置について</p> | <p>J R山田線宮古・釜石間の復旧工事が進められているが、次の課題について伺う。</p> <p>(1) 全線復旧の見通し等について</p> <p>① 県と沿線4市町は、J R東日本に対し一日も早い全線一括開業を目指し、復旧工事の早期完成を要請している。J R東日本は概ね4年間で復旧、開通の考えを示していると伝えられているが、2018年度までの全線開通の実現性について伺う。</p> <p>② 市は、安全性確保等の問題から一括開業方針を要請する一方で、部分開業も引続き検討するとの考えを示してきた。その後の部分開業の検討状況を伺う。</p> <p>(2) 三陸鉄道運営移管に伴う新駅設置について</p> <p>J R山田線宮古・釜石間の全線復旧後の三陸鉄道運営移管に伴い、市は田老、八木沢、津軽石弘川地区の新駅設置検討の考え方を示してきた。市長は平成28年度経営方針で、鉄道新駅も含め「持続可能な公共交通体系」の構築に取り組むとしたが、新年度での新駅設置に対する具体的取り組み方針を伺う。</p> |  |
|--|---|--|

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月1日(火)

質問順位 4番

質問者 議席番号 25番 藤原光昭議員

| 質問事項                             | 質 問 要 旨   | 摘 要 |
|----------------------------------|---|-----|
| 1 超高速ブロードバンド整備について               | <p>情報通信技術は高度化し、通信データの大容量化が進む中、地域によっては利用機会を享受できず、情報利用の格差を痛感している。</p> <p>経営方針では、光ファイバー等の未整備地域を解消するため、新たに超高速ブロードバンド情報通信基盤の整備に着手するとしているが、実施エリアをも含め、具体的な内容について伺う。</p>  |     |
| 2 国道340号押角トンネル前後の未整備区間の事業化促進について | <p>国道340号和井内工区は、平成28年度の完成予定となっている。地元では、和井内工区終了後も引き続き整備されていくものと思っている人も少なくない。押角トンネルの前後の区間が改良されてこそ、代替え道路と成りうるものである。</p> <p>市も市町村要望の中で、未整備区間の改良を要望しているが、県では交通量の推移などを見極めながら検討していくが、早期の整備は難しいとしている。</p> <p>そこで、次の点について伺う。</p> <p>① 平成27年度市町村要望に対する県の回答について、市長はどう受け止めているか伺う。</p> <p>② 予定されている復興関連道路の整備が終了した後では、交通量の増加は見込めず、このタイミングを逃すと事業化の認定は難しいと思うが、市長の現状認識と見解を伺う。</p> <p>③ 経営方針では、国道340号を含め、早期完成に向けて要望するとともに、事業支援をしていくとしているが、事業化に向けて地元の熱意と誠意を示す力強い住民の行動と他自治体に勝る期成同盟会でのアピールが必要と考えるが見解を伺う。</p> |     |

|                          |   |  |
|--------------------------|---|--|
| <p>3 介護職員の確保について</p>     | <p>国は、平成 27 年の改定で介護報酬全体を大幅に引き下げた。人材を確保するため介護職員の処遇改善に充てる報酬加算も、条件が厳しく人員体制などの強化が可能な一部の施設しか、処遇改善に結び付いておらず、サービス低下を余儀なくされている。</p> <p>超高齢化社会に向け、将来の介護職員の不足は深刻である。介護職が集まらないのは、賃金が低く、仕事がきついためであり、介護職で生活できるという信頼がなければ志望者は増えない。</p> <p>安倍総理は、介護離職ゼロを目指すとしており、県も対策に動き出しているとのことだが、次の点について伺う。</p> <p>① 介護離職ゼロに呼応した市の新たな取り組みについて伺う。</p> <p>② 県内各地で、介護職員の不足が顕在化しているが、宮古市の実態について伺う。</p> <p>③ 介護の現場では、施設だけ増えても、賃金を上げて処遇改善しないと人は集まらないというが、市としてどのような対策、支援ができるか伺う。</p> |  |
| <p>4 バス利用者のトイレ設置について</p> | <p>J R 岩泉線が廃線になり刈屋駅の駅舎、トイレなど全てが撤去された。</p> <p>刈屋駅は、J R や県北バスのバス停も設置されており、住民からもトイレの設置を望む声が多く寄せられるが当局の見解を伺う。</p>   |  |

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月1日(火)

質問順位 5番

質問者 議席番号 24番 茂市敏之議員

| 質問事項          | 質 問 要 旨  | 摘 要 |
|---------------|--|-----|
| 1 市民の健康を守るために | <p>① 厚生労働省が平成16年度に調査した「最新の科学的知見に基づいた保健事業に係る調査研究」によると、健康診断で実施されている代表的な24の検査項目のうち心電図測定、胸部X線、コレステロール検査など16項目は病気の予防や死者の減少という視点では有効性を示す根拠が薄いと結論づけている。つまり、一般健康診断は市民の健康に役立たないということである。大金をかけて健康診断をすることに本当に意味があるのかと疑問に思うが、市長の見解を伺う。</p> <p>② 国に対して、もっと国民のためになる健康診断の内容とするように意見・具申すべきと考えるが、いかがか伺う。</p> <p>③ 「アミノインデックスがんリスクスクリーニング」という検査方法があり、1回5ccの採血で男性の場合は、胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん、前立腺がんの5種類、女性の場合は、胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、膵臓がん、子宮・卵巣がんの6種類の代表的ながんのリスクを評価できるとのことである。すでに全国5つの自治体で、この検査の受診料の一部助成を行っている。現状の健康診断と違い、非常に有効な検査と考えることから、本市でもこの検査の受診料の一部助成を行い、市民をがんから守るべきと考えるが、市長の考えを伺う。</p> <p>④ 市内の内科医に対し、この検査ができるように働きかけるべきと考えるが、どうか伺う。</p> <p>⑤ 花巻市で、今年1月から胃がんの原因となるヘリコバクターピロリ菌の無料検診を実施するとの報道があった。本市も同様の取り組みをすべきと考えるが、どうか伺う。</p> |     |

|                           |   |  |
|---------------------------|---|--|
| <p>2 提言に対する市当局の対応について</p> | <p>① 平成 25 年 3 月の予算特別委員会で、某テレビ局のお見合い番組の誘致を提言した。市当局は応募の方向で平成 26 年 3 月の広報みやこで独身男性の参加募集を行っていたが、平成 27 年 8 月にその後の状況を確認したところ、取りやめたとのことであった。市当局は本気でやる気があったのか、辞退した理由は何か、再度応募する予定はないか伺う。</p> <p>② 市当局は、議員からの提言について「検討する」と答弁した場合、どのような経過で結論を出しているのか伺う。</p> <p>③ 「検討する」と答弁した場合、1 カ月後ぐらいには検討結果について提言者に報告すべきと考えるが、どうか伺う。</p> |  |
|---------------------------|---|--|

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月1日(火)

質問順位 6番

質問者 議席番号 7番 中島清吾議員

| 質問事項                  | 質問要旨   | 摘要 |
|-----------------------|--|----|
| 1 漁業担い手育成<br>対策事業について | <p>経営方針で触れられている産業・経済復興に向けた取り組みについて、以下の点を伺う。</p> <p>① 漁業担い手育成対策事業を利用して就漁した方及び現在利用している方の現状から、改善すべき課題、とりわけ参入者の将来的生活の安定に必要な販路の確保等による所得向上策を検討する考えはないか伺う。</p> <p>② 県事業の中には漁船漁業の担い手支援として指導者(船主)に補助金が支払われる制度があるが、定置網漁業者が対象となっていないことから本市で制度を設けるべきと考えるが、市の見解を伺う。</p> |    |

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月2日(水)

質問順位 1番

質問者 議席番号 1番 今村 正議員

| 質問事項               | 質 問 要 旨   | 摘 要 |
|--------------------|---|-----|
| 1 津波遺構たろう観光ホテルについて | <p>津波遺構たろう観光ホテルが本年4月から、無料で公開される予定であると、経済常任委員会で説明がありました。</p> <p>市は、これまで、今後19年間の維持管理費を約1億7,300万円としており、この費用を賄うために年間見学者を5万人と推計し、その入館料や全国からの寄付金を充てる計画であるとのことでありました。</p> <p>しかし、今回の計画変更は、当初の「入館料」「寄付金」主体の方針を、無料に転換した。この事業を実施するための場当たりの、その場しのぎの言い訳で変更したことは、重大な意味を持つものと考えます。</p> <p>市長は、こと田老に関しての政策は旧宮古に優先して実施した感が、市民の間では、不満となつて充満しているところでもあります。大槌町の「旧役場庁舎」震災遺構の建設撤回にも現れているように、後年度負担の軽重をおもんばかれば、存置することが住民にとって、最重要な案件かどうかの判断が大槌町長選において戦われました。</p> <p>住民感情として、「残しておいてほしい」との思いは重々理解できるものではありませんが、将来にわたる負担を考えたとき、住民の意思の確認がなされないまま実行されて良いのか。市長の意向と、住民の意向の乖離もありうることを考えられます。</p> <p>入館料を徴収するといった当初の考え方、政策の方針転換であるので、改めて市民の意向を確かめる「住民投票」もその選択肢ではないかと思いますが、市長の見解を伺います。</p> |     |
| 2 宮古市営浄化槽事業について    | <p>平成28年度で、PFI事業の当初計画10年が終了します。整備基数も現在1,060基となり、所期の目的は達せられたものと思います。</p> <p>今後は、民間個々の営業努力で、より良い浄化槽事業として、市民の信頼を勝ち取り事業推進に寄与していただけることを期待しますが、今後の見通しを伺います。</p>   |     |

|                |   |  |
|----------------|---|--|
| 3 市営住宅間の転居について | <p>現在、階段の多い市営住宅に入居している高齢の方が、日常生活に不便を感じているため、階段の少ない市営住宅に転居できないかと担当課に相談したところ、条例で市営住宅間の転居はできないこととなっているので、転居は無理だとの回答があったとのことでもあります。</p> <p>条例の改正を検討すべきと思いますが、見解を伺います。</p> |  |
|----------------|---|--|

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月2日(水)

質問順位 2番

質問者 議席番号 14番 橋本久夫議員

| 質問事項          | 質 問 要 旨   | 摘 要 |
|---------------|---|-----|
| 1 砂浜の保全について   | <p>① 近年、藤の川海岸における砂浜の侵食が著しい。東日本大震災によつての地盤沈下の影響もあり、かつての美しい砂浜が失われている。砂浜は様々な機能を果たしているため、現在及び将来のために維持、復元、創造していくべきである。そのためには土砂を限られた資源として山地から海域まで効率的に管理する必要がある。砂浜を維持、復元、創造することは、海岸の価値を高め、現在及び将来の人類に恩恵をもたらすことになる。宮古湾内に残された藤の川海岸の貴重な砂浜を守るためにも、宮古市でも積極的に保全活動(養浜)を進めるべきである。見解を伺う。</p> <p>② 「全国自然敬愛サミット2016」が、宮古市で開催される。これを契機に砂浜を活用した環境教育、里海教育が必要である。失われつつある砂浜を保全するためにも、積極的に海に出向き各種体験活動を行うことが必要である。藤の川海岸を核とした体験教室への取り組みについて見解を伺う。</p> |     |
| 2 芸術文化の振興について | <p>① まちのよき伝統や文化を次世代に継承、発展させていくことは私たちの責務あり、震災後、失われた芸術文化をどう取り戻していくか、そのための芸術文化振興への取組を強化していくことが必要であると考えます。芸術文化は、創造力や表現力を豊かにするだけでなく、地域や産業を新たな視点から活性化する力にもなる。大震災から5年、市民が関われる芸術文化の創出と、「心の復興」活動をどう進めていくのか伺う。</p> <p>② 芸術文化を他の領域とつなげるために、国体開催を契機に、開会式、閉会式、あるいは期間中、様々な芸術文化のジャンルが関われる機会を創出出来ないか伺う。</p> <p>③ 市民文化会館を拠点とした芸術文化と市民をつなげるコーディネート、あるいは文化のプラットフォームづくりができないか伺う。</p>  |     |

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月2日(水)

質問順位 3番

質問者 議席番号 2番 小島直也議員

| 質問事項            | 質 問 要 旨  | 摘 要 |
|-----------------|--|-----|
| 1 生活困窮者の医療について  | <p>① 経営方針では生活困窮者支援対策について触れられていないが、昨年春から始まった生活困窮者支援事業は活発に運営されており、言葉を変えると生活困窮者が多くいるということだ。年老いた親と病気がちな子どもの二世帯で、家はあるが、収入が少なく生活に悩んでいるケースがある。生活保護の認定を受けることができずに、生活に困窮している市民へのケアは十分か伺う。</p> <p>② 医療費の支払いに不安があり、通院できずに、病気を悪化させているケースが多々ある。うつ病を発症して働けなくなり、通院も我慢して2～3年のうちに精神的疾病に移行している場合もある。平成27年度版宮古市の国民健康保険によると、精神的疾病数が約1,000件、その医療費が約6,500万円となっている。また、精神科の受診待ちは2カ月になるという。この状況をどのように受けとめているのか伺う。</p> |     |
| 2 生活習慣病等の予防について | <p>市民の健康増進、健康年齢維持のための健康教室の対象者を若年層にも広げ、増やしていくべきと考える。予防医学を広く市民に啓発し、若いうちに生活習慣病の予防意識を持つことで、将来の医療、介護に良い結果として実を結ぶと思うが、市長の見解を伺う。</p>  |     |

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月2日(水)

質問順位 4番

質問者 議席番号 9番 内 館 勝 則 議 員

| 質問事項                                | 質 問 要 旨  | 摘 要 |
|-------------------------------------|--|-----|
| 1 ひっ迫する市財政への自主財源確保の取り組みについて         | <p>平成28年度の一般会計の総額は481億5,100万円<br/>で前年度比145億7,100万円、23.2%の減である。</p> <p>復興財源や地方交付税に依存する市財政状況の中で、合併後の一体感あるまちづくりが求められている。市の存続のグランドデザインは描けているのか、急激な少子高齢化や人口減少により、ますます市財政がひっ迫することが懸念される。</p> <p>健全財政に近づけるには自主財源の確保が急務と思慮されるが、自主財源確保の取り組みについて伺う。</p>  |     |
| 2 将来を見据えた農林水産業の体質強化と若い後継者が挑戦できる支援策を | <p>農林水産業の振興については、「産業立市ビジョン」と各般にわたる生産者、事業者、企業、関係団体、市民との協働により更なる産業振興を図っているが、戦略としての具体化が見えない。</p> <p>県ではTPPなど将来の課題を見据え、農林水産分野の体質強化策などに重点を置いた施策や将来を担う後継者育成強化策を打ち出した。</p> <p>本市においても、新たな掘り起こしや振興の土台となる北上高地の広大な牧場資源や森林資源など他にはないポテンシャルを有していると思うが、経営方針では、積極的な姿勢が見受けられず残念である。</p> <p>TPPをはじめグローバル化している各分野において、将来を見据えた体質強化を講じ、若者が魅力をもって取り組める、食べていける、儲かる農林水産業に若い後継者が挑戦できる支援策を実施すべきと考えるが取り組みについて伺う。</p> |     |

|                             |  |  |
|-----------------------------|--|--|
| <p>3 介護職員の人材確保と処遇改善について</p> | <p>本市は高齢化率が著しく進行する中であって、特別養護老人ホームやデイサービス施設などの介護施設において人材確保が課題となっている。入所待機者が増える一方で、増床による入所待機者の解消に努めようとしているが、介護職員が集まらず入所者を増やせないというミスマッチも起きている。</p> <p>介護職員の人材確保に向けた取り組みとして、定住促進対策の観点からも就学支援貸付融資制度等は急務であり、介護職に就いた場合の返済免除制度の新設や賃金を上げるなどの待遇改善がなければ介護職員は定着しない。</p> <p>市独自で先行できる施策を打ち出さなければ介護現場の明日はない。本市における地域包括ケアシステムの充実と併せ、介護職員の人材確保と処遇改善策について伺う。</p> |  |
|-----------------------------|--|--|

# 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月2日(水)

質問順位 5番

質問者 議席番号 20番 落合久三議員

| 質問事項                                    | 質 問 要 旨  | 摘 要 |
|---|--|-----|
| <p>1 宮古市経営方針の平成28年度最重要課題の「地方創生」について</p> | <p>安倍政権の地方創生は「2060年に1億人程度人口を維持する」そのために「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を示し、その実現のため各自治体に5カ年の「総合戦略」策定を求め、市は2月9日「宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定した。</p> <p>そこで市長に以下の点を質問する。</p> <p>① 地方創生の前提は人口減と少子高齢化に歯止めをかけることだが、そもそも人口減、少子高齢化の主要な原因は何だと受け止めているか。</p> <p>② 安倍内閣の地方創生「総合戦略」への対応、向き合い方をどう考えているか。</p> <p>③ 2010年から3カ年で人口が増加した自治体(三大都市圏を除く)は、148市町村と聞くが、人口増、人口減ストップの先進自治体の例から何を教訓として受け止めているか。</p> <p>④ 宮古市の場合、若者の雇用の場の確保・創出と子育てしやすいまち・環境づくり、「みんなで支え合う」地域コミュニティ形成で、重点的に取り組むべき政策課題は何か。残念ながら経営方針にその具体化、詳細が見えてこない。</p> |     |
| <p>2 「復興再生期」最終年の住まい再建支援策について</p>        | <p>本年1月1日現在、被災者のうち、住まいの再建が済んでいないのは977世帯である。更に、「住まい再建方法の意向把握状況調査」(県復興局生活再建課)によると、住まい再建方法が「未定」が118世帯である。言うまでもなく住まい再建は復興の要であり、これを抜きに「人間復興」はない。</p> <p>そこで市長に次の点での認識と決意を伺う。</p> <p>① 「住まい再建方法未定」の状況をどう把握しているのか。また、「未定」とする要因はどのように理解しているか。</p> <p>② 防災集団移転促進事業の移転先の宅地購入費用額が譲渡した土地の価格より高く、それが住まい再建の支障の原因であれば、その差額を一定の比率で補助することを陸前高田市は決定した。財源は、震災復興特別交付税と報道されている。市長はこうした例をどう受け止めているか。</p>   |     |

|  |  |  |
|--|--|--|
|  | <p>③ 同様に防災集団移転促進事業の移転先宅地を賃貸契約する方に宮城県東松島市は、定期借地権を52年以内とし、貸付料の減額規定を設け、全部を減額する場合は期間を30年としている。住宅再建にとって大きな支援となるものだ。宮古市でも具体化すべきだと思うがどうか。</p> |  |
|--|--|--|